

# グリーン復興プロジェクト 「みちのく潮風トレイル」 (旧名：東北海岸トレイル) 予定路線の旅

A Travelogue in "Michinoku-Shiokaze" Trail

中川 春菜\*

Haruna NAKAGAWA

彼の旅はこうして始まった。  
『八戸へ向かう夜行バスの中では、どんなことをしようなんて考えず、もう色んな人に話しかけて出合いをいっぱい作ろう。そしたら何か生まれるだろう。そう考えていました。僕は美食家でもないし、小説家でもないし、東北に詳しいわけでもない。だけど、色んな人と出会ってしゃべって同じ時間を過ごすことはできる。そう信じて高速バスの寝れない夜を過ごしました。』

とうとう僕のロングトレイル歩きが始まります…。』

彼の名は後藤駿介。みちのく潮風トレイル(当時はまだ東北海岸トレイル(仮称)と呼んでいましたが)の踏破モニターとして、青森県八戸市の蕪島から福島県相馬市の松川浦まで歩くことになった大学生である。

## 1. みちのく潮風トレイルとは

環境省では、東日本大震災からの復興に資するため、平成24年5月に「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」を策定した。

ビジョンでは、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域の暮らしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興することを提唱しており、その具体的な取組として7つのプロジェクトを掲げている。そのプロジェクトの1つが、本稿でご紹介する「みちのく潮風トレイル」(以下、本トレイル)である。

本トレイルは、地域の自然環境や暮らし、

震災の痕跡、利用者と地域の人々などを様々な結ぶ道として、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までを対象に設定する長距離自然歩道であり、その延長距離は700km以上と見込まれている。

ハイカーは、海蝕崖の断崖絶壁やリアス海岸などの自然性の高い場所や、沿岸に点在する漁村集落や市街地などを出入りしながら、車の旅では触れることのできない、東北の風景(自然・人文風景)や歴史、文化(風俗・食)の奥深さに触れることになる。

日本では最近、「ロングトレイル」がブームの兆しを見せているが、このように沿岸部を行くトレイルも、沿線の集落などを通過しながら行くトレイルも、本トレイルを置いて国内では稀である。

## 2. 踏破モニターの意義

本トレイルには様々な魅力がある。

本トレイル沿線の自然景観の良さは、陸中海岸国立公園に指定されていることから明らかだが、そういった自然景観の優れた場所だけでなく、集落や市街地などを通過することも、このトレイルの魅力である。

道端のおばあちゃんと交わすちょっとした会話や、民宿や商店でのやりとりなど、「地元の人々との出会い」は旅にとって重要な構成要素の1つとなる。

また集落や市街地などを通過するということは、ハイカーにとってだけではなく、本トレイルが当該地域の復興に資するためにも大きな意味をもつ。それは、集落や市街地など

をトレイルが通過することで、例えば、集落等でハイカーが必要物資を買うことによる地域経済への貢献、あるいはソトから人々が訪れることによる交流人口の増加・地域の活性化につながるためである。

しかし前述のとおり、本トレイルの延長距離は700km以上と見込まれている。

沿線に魅力は点在しているが、実際にはいわゆる遊歩道だけではなくアスファルト道も結構歩く、そんな道程である。果たしてそんなトレイルは、世間に受け入れられるのだろうか。本当にこのトレイルは東北の復興に資することができるのだろうか…。

そこで環境省では、地域の外からの、普通の人の目線で本トレイルの魅力を見てもらうと、踏破モニターに実際に歩いてもらうことにした。そのモニターとして選ばれたのが、冒頭で紹介した後藤君である。

本トレイルの路線(ルート)はまだ決まっていないため、ハイカー後藤君には、あくまでも現時点で想定される大体のルートを歩いてもらうこととした。

また、大学の試験などで東京に帰る必要があるため、ハイカー後藤君の旅は断続的に行われた。2012年12月1日に青森県八戸市蕪島を出発してから2013年3月16日に福島県相馬市松川浦にゴールするまで、延べ約50日間の旅である。

ここからは、ハイカー後藤君が書いた日記(みちのく潮風トレイル公式サイト(<http://www.tohoku-trail.go.jp/>)で公開中)を引用しつつ、その旅を少し紹介してみたい。

## 『三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン』(平成24年5月)概要

### 【基本理念】

国立公園の創設を核としたグリーン復興

—森・里・川・海が育む自然とともに歩む復興—

### 【基本方針】

- 自然の恵みを活用する  
東北ならではの観光スタイルの創造を目指し、自然と共に生き、自然の恵みを活用するくらしや文化を大切にします。
- 自然の脅威を学ぶ  
今後も繰り返されるであろう地震・津波に備えるため、今回の地震・津波について正しく理解し、自然の脅威を学び伝えます。
- 森・里・川・海のつながりを強める  
復興後の持続的な地域の発展のため、地域の暮らしを支える基盤である自然や生態系を保全・再生し、森・里・川・海のつながりを強めます。



※右図はH25年4月現在。H25年5月、陸中海岸国立公園は種差海岸・陸上山万石浦国立公園を編入し、『三陸復興国立公園』になりました。



\*環境省

### 3. 踏破モニター後藤君の旅

最初にお断りしておく、ハイカー後藤君の旅日記のほとんどは出会った人と食べ物に関する内容で占められている。

自然、歴史文化など、別のことに興味をもつハイカーであれば、また全く別の旅になつたろうが…それは次の挑戦者を待つこととしたい。また、食べ物に関しては、本トレイル沿線の自然の豊かさやその大切さを体感できる、ハイカーにとって非常に大きな要素の1つではあるが、本稿では分量の都合上省略する。

#### (1) 様々な出会い

相馬まで歩くという目標はあるものの、寄り道をしながら歩く後藤君の旅は、商店のお母さんとおしゃべりしたり、ゴルフ場に迷い込んでゴルフファートと仲良くなったり、漁師に合コンのセットを頼まれたりと、実に様々な出会いにあふれている。

そんな出会いをひとつずつ挙げていくときりがないので、例として1つだけ紹介することとしたい。岩手県山田町にある荒神社の前でおじいちゃんに出会った時のこと…

『1月2日

そのじいちゃんは釜石の人で「荒神社は、たまに神々しい出来事に遭遇するから毎年来てるだ。」って言ってました。

(中略) それからじいちゃんは、岩に座っているいろいろと面白い話や勉強になる話をしてくれました。隣に座ってじっと聞いてた僕は、ふとじいちゃんの横顔がきれいな海とすごいマッチしていることに気づきました。写真展とかに飾られている写真のようで、見るだけでうっとりしちゃいました。』

地元の自然とともに生きてきた方の姿は、どこかその自然を写しているように思う。通常の観光地巡りでは決して出会うことのできない、トレイルならではの出会いである。

#### (2) 人生の師に出会う

この旅では人生の師との出会いもあった。

そのタコ漁師と出会ったのは岩手県久慈市でのこと。港でたまたま話しかけた漁師に誘われて後藤君はタコ漁に同行。そしてその日は、そのままその漁師のお宅に泊まることに

なった。

『12月17日

(略) おっちゃんは、生き様にこだわっていて、「漁師をやって、自分の家や家庭という財産を守っていることが俺の生き様だ」と言っていました。自分が良い方向に進むか、悪い方向に進むか決めるのは自分。その行動には自分が責任を持たなくてはいけないとも教えてくれました。大人になるってそういうことなのかなと思いつつ、今まで育ててもらった親に改めて感謝しました。

「人生で道に迷ったらまたうちに来なさい」と言ってくれたおっちゃんは、本当に家族のような存在だなあ、と思い、本当に嬉しかったです。(後略)』

震災を乗り越え、家族や地域の絆を大切にしながら漁業に誇りをもって取り組む姿は、後藤君の心に深く焼き付いたようだ。

また、後藤君はこの漁師以外にも、養殖業やイチゴ栽培を営む方など、様々な一次産業従事者と出会い、東北の自然とそこで生きる人々の営みが東京に暮らす自分たちの暮らしを支えている、と実感するに至っている。

学校では決して学べないことを、このトレイルは教えてくれる。

#### (3) 震災と向かい合う

そして本トレイルでは必然的に、東日本大震災と向かい合うことになる。

『12月16日

美味しそうな田楽豆腐を売っている魚屋があったので寄って、魚屋の店主と話をしました。店主のおっちゃんが、「野田に家があったんだけど、奥さんも家も津波で持ってかれてしまった。奥さんは、ママさんパレーの選手で足が早かったはずなのに。」ととても悔やんでいて、「津波が嫌い」と寂しそうに、でも笑いながら僕に話してくれました。どうやったら、おっちゃんは元気になるだろうか。歩いて旅をしているうちに考えようと思いました。』

テレビや新聞が伝える、どこか知らない誰かの話ではなく、現地、実際に目の前の方からお話を聞くことの意義は大きい。そしてもちろん、現地を歩きながら、沿岸地域の現

状を実際に目の当たりにすることの意義もまた、大きい。

震災から2年以上が経過し、今や風化が叫ばれることすら少なくなってきた。しかし少なくとも、こうして旅をしたハイカーは、決して他人事としてではなく、東北に思いを寄せ続けてくれると筆者は信じている。

#### (4) そしてゴール

今回の旅のゴール・相馬市松川浦到着の日は、相馬市長をはじめ100人以上の市民が集まり、後藤君のゴールをサプライズでお祝いしてくださった。温かく出迎えてくれた方々には心から感謝したい。

後藤君の日記はこう結ばれている。

『3月16日

少し長かったけど、まだまだ歩き足りない僕の東北の歩きの旅は一旦終了です。

僕は、歩かないと出会えない東北の人と出会うこのトレイルが大好きだ！「こんな人いるんだ！」とか「こんな熱い考えあるんだ！」って驚きまくって、日本は奥が深いなあっていうことに気づかされました。(略) 日記を書いている今でも、歩いてきた日を1日ずつ振り返ると、青森、岩手、宮城、福島で出会った人の表情が目に浮かびます。それは一生続くんだろうなあ、って思います。

このトレイルが東北の復興に少しでもつながりますように。』

### 4. おわりに

本トレイルは、平成27年度末までに順次路線決定をしていく予定であり、第一弾の開通は今夏～秋を予定している。

最初にお断りしたとおり、後藤君の旅は言わば「人と出会う旅」であった。しかし本トレイルの懐は深い。ハイカーの数だけ旅が存在する。

本トレイルが全線開通するのはまだもう少し先のことだが、皆様もどうか時間をつくり、東北の地を旅してほしい。パンフレットに紹介される「東北」ではなく、そしてステレオタイプの「被災地」でも「被災者」でもなく、テレビや新聞でも出会えない東北があなたを待っている。



1月2日 神社の前で出会ったおじいちゃん。右側がハイカー後藤君。



12月17日 人生の師となるタコ漁師に誘われタコ漁へ



3月16日 途中で出会ったご家族が、ゴール地点で出迎えてくれた。